

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第16週（令和7年4月14日～令和7年4月20日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・百日咳の報告が102件あり、第1週からの累積報告数が490件になりました。報告数が最多であった2019年の同時期（364件）より多く推移しており、注意が必要です。本疾患は、患者の咳やくしゃみ等の飛沫や、感染者との接触により感染し、特に乳児では重症化することがあります。ワクチンの定期接種が予防に有効ですので、お住まいの市町村にお問い合わせください。
- ・水痘（みずぼうそう）の定点当たり報告数が1.13となり、従前の注意報開始基準値（定点当たり報告数1.00）を超えました。本疾患は、ウイルスによる発疹性疾患で、患者の咳やくしゃみ等の飛沫や、水疱・のう疱（粘度のある液体が含まれる水疱）の排出物への接触により感染します。発熱の後に発疹が現れ、紅斑、水疱、のう疱を経てかさぶたになり、治るとされています。予防にはワクチンの定期接種が有効ですので、お住まいの市町村にお問い合わせください。
- ・福岡県感染症情報ホームページ(https://www.fihe.s.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などをご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	14	200	229	3,623
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	30	19	482
後天性免疫不全症候群	1	10	10	215
梅毒	12	244	167	3,705
播種性クリプトコックス症	1	1	1	42
百日咳	102	490	1,222	7,084

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル（※）

：注意報レベル（※）

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	136	1.11	0.74	8,138	2.10
インフルエンザ	145	1.19	1.31	4,621	1.19
急性呼吸器感染症	5,305	43.48	1.24	181,270	49.38
RSウイルス感染症	113	1.61	0.90	2,205	0.93
咽頭結膜熱	30	0.43	1.36	594	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	259	3.70	1.19	5,020	2.12
感染性胃腸炎	739	10.56	1.09	19,581	8.26
水痘	79	1.13	3.76	775	0.33
手足口病	2	0.03	0.67	126	0.05
伝染性紅斑	63	0.90	1.47	2,670	1.13
突発性発しん	26	0.37	0.96	652	0.27
ヘルパンギーナ	2	0.03	2.00	40	0.02
流行性耳下腺炎	5	0.07	1.25	129	0.05
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	40	0.06
流行性角結膜炎	14	0.54	1.17	564	0.81
細菌性髄膜炎	1	0.07	—	8	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	—	10	0.02
マイコプラズマ肺炎	2	0.13	0.67	114	0.24
クラミジア肺炎	0	0.00	—	2	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	7	0.47	0.88	117	0.24

（※）令和7年第15週からの定点医療機関の減少等に伴い、従前の警報及び注意報の基準値を直ちに当てはめることはできません。そのため、国が警報及び注意報の取扱いを検討することとしています。取扱いが示されるまでの間、本県では従前の基準値で運用することとします。